

図書館通信

静岡大学附属図書館報

No. 161



2010.4

- 巻頭言
- 浜松分館もミニリニューアル中！
- 他大学図書館見学報告
- 学生モニターによる選書報告
- 図書館の動き

巻頭言

大学には図書館がある！



館長 加藤憲二

学部と大学院合わせて2,600人の新しく静岡大学のメンバーに成られた皆さん、ようこそ静岡大学へ。みなさんの今の気持ちを、今の自分を裏切らないように、大学生としての、大学院生としての生活を送ってください。みなさんは、静岡大学でそれぞれ学びたい学部や研究科が既に決まっている訳ですが、大学にはもう一つ、みなさんの学習と研究を支える図書館があります。国立大学が法人化して6年、静岡大学も荒波にもまれて財政的には厳しいことが多いのですが、図書館は是非みなさんの静岡大学ライフをしっかりと支えようと考え、行動しています。

図書館は、結構遅くまで開いている

静岡大学の附属図書館には今、119万冊の本があります。これは全国の国立大学では23番目の数字です。多いと思われるか、少ないとおもわれるか。毎年1万3、4千冊づつ蔵書が増え

ていますが、これはもっと頑張って増やさねばいけない数字だと私は考えています。学習参考図書に費やす大学の予算は年間2,800万円、約5,500冊の本を買っていますが学生数からすると二人に1冊にしか成りません。是非、一人当たり年間1冊の学習や研究の参考図書を買いたいと考えていますが、いかんせん年間の大学全体での事業費が36億円ほど。光熱費に始まって日常活動に必要な経費や、人件費、教育活動に必須の経費、校舎の改修費なども盛り込まなければ成らない経費の中でのやりくりです。

その図書館ですが、平日は朝9時から夜10時まで。週末や祝日も朝9時から夜7時まで開館しています。特に夜間主の学生の皆さんからはもう少し時間延長を、との声もあり申し訳ないのですが、結構夜遅くまで開館しています。自分の生活ペースに合わせて大学ライフを作ってみてはいかがでしょうか？

まず、新入生セミナーで

高等学校からあるいは様々なステップを経て学部に入學された皆さんには、図書館職員がほとんど総出で、30人前後のクラス単位で図書館の使い方、本や論文などの学術情報をどのように手に入れるかをパソコンに使っていただきながら説明する時間が新入生セミナーの中に設けてあります。クラスによっては、さらに上級コースのアドバンス編も用意してあります。図書館からみれば、昨年は合計127回のセミナーを開きました。是非セミナーに参加して、情報をいっただけで手に入れることができる体制をまず作ってください。進級してからもセミナーがあったらよいという声も聞かれます。図書館職員（ライブラリアン）は裏方でもおおくの仕事をこなしています。その調整をし、可能であれば新たな支援もしたいと思っています。

電子ブック

KindleやiPadなどの出現が読書の新しい波となって押し寄せています。すでに電子媒体で読書を楽しんでおられる人もおられるでしょう。研究に関する書籍の電子化も進んでいます。静岡大学ではシュプリンガー社などから出版されている1万冊の電子図書が読めるようになっています。これらは是非研究室のゼミなどで使っていただきたいなと考えています。

電子ジャーナル

大学院生はもちろん、学部生も研究室のゼミなどでは世界最先端や、歴史的に重要な論文を読む必要があります。この論文の多くが電子媒体で供給される仕組みが出来上がっています。静岡大学では世界で発行されるおよそ5,000のジャーナルと、いくつかの重要な専門のデータベースを大学のどこからでも見ることができます。近い将来、静岡大学のメンバーであれば学外からでもこの、目に見えない図書館にアクセスできるようにしたいと考え、準備に取りかかろうとしています。

教員の研究が一目で分かる電子リポジトリ

静岡大学ホームページのトップ頁右上にある、ブルーの地球儀がロゴのリポジトリのボタンをクリックしてみてください。ここでは4,000以上の静岡大学発の研究成果をみることができるようになっています。最近静岡大学に赴任した教員や、まだ成果を登録していない教員からも早く成果を登録していただき、充実した電子リポジトリを作り上げてゆきたいと考えています。皆さんが知りたいと思った教員がどんな講義をしているか、シラバスへもリンクしたなかなか優れたもののリポジトリです。一度のぞいてみてください。

静岡大学の図書館文化を

仏作って魂入れず、ではありませんが器も必要ですがそれだけでは何物なりません。是非、静岡大学らしい図書館を静岡キャンパスと浜松キャンパスにしっかりと存在させたいと思います。静岡では海の見えるリニューアルした図書館を、浜松では正門を入るとすぐ左手にある立地条件のよい図書館を多いに活用してください。そして、大学らしさと静岡らしさ浜松らしさの融合した活気ある図書館にするために、皆様の声や、時にはご協力もお願いしたいと思います。

静大図書館HP「館長室から」掲載記事一覧

<http://www.lib.shizuoka.ac.jp/koho/?kancho>

- ・ Learning Parkへ静岡館リニューアル！ — 静岡大学図書館の＜文化＞を作りませんか
- ・ 附属図書館本館の模様替え - Learning Park へ
- ・ (巻頭言)「見えない図書館」
- ・ 本を捨てる、10年後を考えて
- ・ (巻頭言) カフェ、イン ライブラリー
- ・ ライブラリーへぶらり

浜松分館もミニリニューアル中！

静岡本館では大々的にリニューアルしていますが、浜松分館でも、利用者の皆さんにより快適に図書館を使っていただけるよう、リニューアルを進めています。

昨年12月には二階北側の閲覧席を改修しました。以前床に張られていた古いタイルを撤去し、新たに防音性・保温性に優れるタイルカーペットを敷いています。

また、老朽化していた机・椅子を入れ替え、一人一人しきられている照明付きキャレルデスクを24台設置しました。落ち着いて学習できる環境が整っています。是非ご利用ください！

浜松分館はこの他にも館内資料・設備の改善をしていきます。

蔵書については、2010年3月に、従来から所蔵数が少ないと指摘があった人文・社会科学系の図書を約2,000冊受入れ、資料の充実を図りました。

1階パソコンコーナーの机も入れ替えます。

その隣の参考図書コーナーは、書架を一部整理し、くつろいで新聞等をご覧いただけるようなテーブルを配置します。

また、国際放送・視聴覚コーナーについても、テレビの入れ替えをおこないます。学習や情報収集・息抜きなど、活用方法はいろいろあると思います。自分に合った使い方を見つけてみてください。



二階北側の閲覧席を一新！

図書館利用学生モニターによる他大学図書館見学報告

図書館では、図書館における今後の学生支援のあり方についての調査をしました。

具体的には図書館利用学生モニターと一緒に他大学の図書館を視察し学生の意見を図書館運営の参考にしようというものです。

静岡、浜松から9名の学生に参加していただき、横浜国立大学、東京女子大学、大阪大学の図書館視察に行ってきました。そのレポートです。

【横浜国立大学】

図書館見学を終えて

教育学部総合科学教育課程 4年
丸地 加奈子

静岡大学と横浜国立大学は敷地内の雰囲気もどこか似たものがあり、親近感を感じた。見学のため図書館内に入ると、まずカフェテリアが一階にあることに驚いた。高校生時代に漠然と描いていたキャンパスライフは、まさにこういう空間が頭の中に存在したので、実際に目の前にするとその自由でのびのびとした雰囲気にとても感動した。

私が大学に入学して、いちばん最初に図書館を利用した時、ここはレポートや研究論文を書いた

めの場所なのだ、と少し堅い印象を持った。各分野にわたって専門的な書籍が多く、さすが大学付属の図書館だとレポートを仕上げる際にはたびたびお世話になった。そうして利用しているうちに、こんなところにこんな本があったのか(ファンタジーの名作、「モモ」や「ハリーポッター」から、ケータイ小説が書籍化され話題となった「恋空」など)という偶然の発見から、レポートや勉強以外に純粋に読書をするためだけに足を運ぶようになり、当初と比べてずいぶん親しみを感じるようになった。

未だにそのような発見をしていない学生は多く、友人に知らせてあげると驚いているのでこれはもったいないことだと思う。横浜国立大学では、書店のように「就活コーナー」などとテーマごとに本を集め、またそれらを目に付きやすい場所に展示するようにしていた。これは学生にとってもどんな本があるかわかりやすいと同時に、心理的にも身近に感じられる方法であると思う。書店のバイトをしていると、POPを書いて添えてみたり、紙で季節に応じた簡単な飾りを作って棚を彩ったりすることがある。それを大学図書館でもやってみると、簡単にできる割には視覚的にも見栄えがよく親近感も湧いて、学生の図書館利用に対して

の効果があがるかもしれない。

また、静岡大学では最初に「新入生セミナー」という講義の中で図書館の利用方法について学生はある程度の基本的な知識を教わる機会がある。蔵書検索の仕方や書庫内の様子など、90分の枠内で最低限必要な情報を得ることができる。

しかし、図書館というのは一步館内に入れば情報の多い空間で、インターネット検索に慣れ親しんだ学生にとって「館内で探したい資料を見つける」ことは、OPAC等の検索機能を使っても時に個人差が開いているように思う。もちろん、より検索機能を高度化するよりも、自分の力で探し出す能力は大切である。棚に番号だけではなくさらに細分化された書籍情報を記載しておく、といったことで、あとは学生が自ら棚に目を通し探し出せるきっかけ作りになるかと思う。

静岡大学では「海に見える図書館」というように、農学棟を越えた先の方に駿河湾が見える。私自身もその眺めがとても好きで勉強や読書の合間によく眺めているため、窓側に平行した席もいくつか置いてみると良いかもしれないと思った。横浜国立大学では窓に面した席が多く、どの図書館でも持っている特有の閉塞感をあまり感じなかった。静岡大学図書館も、リニューアルし席の配置なども変わるため、どのようになるのかとても楽しみであるが、卒業してしまうのが非常に残念だ。

大学生とは立場としてはまだ学生であっても、自分で学び自ら行動しなければならぬ機会は多い。とっつきにくい教授にあたり思わぬ苦勞をしたり、講義が期待していたものと違って戸惑ったりすることも多々あるかと思われる。そんな中、学生にとって一つの癒し空間としても図書館はあって欲しい。積極的に利用していきたい、と思ってもらうことも人切であるが、この図書館と出会えて良かったと、ふとした時に感じられるような温かい雰囲気、これからはずっと持っていて欲しい。

【東京女子大学】

「東京女子大学図書館見学」報告

理学部物理学科 4 年
宮本 公郎

同大学図書館職員橋本課長より詳しい説明と館内の案内をしていただいた。その後質疑応答の時間も設けていただいた。以下に率直な感想を記す。

私の大学図書館に対するイメージは、縦長のコンクリート製の建物で、外部からは中の様子がう

かがえず、内部は薄暗い「図書の倉庫」といったものである。学生より教員、学生より図書が重視されているようで学生には利用しづらい。

東京女子大図書館はこんなイメージを良い意味で大きく裏切ってくれた。単なる図書の閲覧と貸し借りの場を超えて、学生生活の主たる場として図書館が機能するように考え抜かれている。そのアイディアの多くは、教員ではなく職員由来であり、このことも非常に特徴的なことだと思う。

(1) 外観と内装

横長の建物で外観はまるで音楽ホールか美術館のようである。大部分がガラス張りで中の様子が見える。館内に多くの学生がいるのがよく見える。玄関正面に受付カウンターがあるが、横長ではなく円形に設計されている。図書館のカウンターというより大型書店のカウンターに似ている。

内部はガラス張りによる採光効果で非常に明るい。図書館内の薄暗さを日頃から不満に思っていた私にはこの明るさが新鮮であった。

静大図書館の場合、4階には一般図書ではなく辞典や新聞、雑誌などを主に配架しており、一般図書は閲覧席のある5階に配架している。そのため学生は5階に集まる。東京女子大学図書館では1階に特徴のある部屋を意識的に配置して、学生が1階に集中するよう意図されている。1階の盛況ぶりがガラス越しに館外から見えて、キャンパス内の学生を図書館に呼び込む効果がある。

各部屋のネームプレートには「グリーン」、「オレンジ」を基調にした優しい柑橘系の色遣いがされていて、非常に心地よく感じられた。これを称して「ビタミンカラー」と呼ぶそうである。改築の際に関わったデザイナーによるものとのこと。

設計にデザイナーが関わっているということで連想したのだが、図書館には芸術家の奇妙なオブジェがポツンと置かれていることがしばしばある。本当に必要なのだろうか。そんなことにお金を使うのをやめて、設計・改築時にはデザイナーの力を借りるのはどうだろう。デザイナーなら機能と意匠を調和させ、利用者に快適な空間を提供することに秀でているはずである。芸術家のオブジェよりもコストも安いかもしれない。

(1) 「コミュニケーションオープンスペースとリフレッシュルーム」

学生や教員が集まって自由に話ができる部屋として、コミュニケーションオープンスペースと飲食もできるリフレッシュルームが設置されている。

実際に見学してみると、学生たちはおしゃべり

を楽しんでいるわけではなく、資料などを広げて真剣に議論をしているようである。この部屋には他階に配架されている図書を持ち込むことができ、返却するには部屋に置かれているカートに戻せばよい。

図書は主にレポートや発表用資料として活用されるので、パソコンやコピー機が利用できて、資料を広げて話し合いができる場所が図書館内であれば、わざわざ借りる必要はない。貸出冊数や期限に縛られない館内利用で十分である。事実、館内利用者は増えているにもかかわらず、貸出冊数自体は増えていないとのことである。

飲食可能なリフレッシュルームの設置は私も以前から静大図書館に望んでいたことである。図書館はたいてい飲食禁止であるが、コンビニ時代の今、一切持ち込むなというのは非現実的である。せめて飲料の持ち込みは可能にすべきである。飲食のためにいったん館外に出てしまえば戻ってくるのも面倒である。飲食可能な部屋があれば、飲食のためわざわざ館外に出る必要がない。もしその部屋以外（たとえば閲覧室など）で飲食をしている学生がいれば、職員は積極的に強く注意ができる。

(3) 学生アシスタント制度

学生ボランティアを募り、簡単な研修を施した後、スタッフとして利用案内等の活動をしてもらっている。利用学生も職員より学生スタッフに相談するほうが気が楽だし、職員も仕事を多少なりとも軽減できる。スタッフに採用された学生が、業務の一翼を担う責任感から大学への参画意識が高まり、勉学等により積極的になるといった効果も期待できる。

上級な業務として、基本的な学習指導を行う「学習コンシェルジュ」、システム対応を行う「システムサポーター」がある。こちらは必要なスキルの能力を判定し、能力ありと判定した学生には正規の契約を結んで給与を支払っている。ボランティアではない。

この制度は数年来有効に機能しており、学生の自主組織に発展しているようである。業務用のマニュアルも学生の手で改訂され続けており、定期的に連絡会も開かれているようである。かといって学生に丸投げしているわけではなく、連絡会に職員も参加する等の工夫しているとのこと。

(4) 館内のパソコンについて

館内パソコンの機種選定についても感心した。情報センターが教育用パソコンに採用したMacで

はなく、あえてWindowsを導入している。実社会で主流のWindowsパソコンを図書館用に独自に採用した決断に賛意を表したい。

(5) 書架と閲覧席について

2・3・地下階には開架書棚が設置されており、大半の図書はここに並べられている。大学図書館では全面開架が主流になっていくと実感した。書棚どうしの間隔が広くとってあり歩きやすい。床にはカーペットが敷いてあり、靴音を気にせずに歩くことができる。

閲覧席は2・3階に設置されており、非常に静かである。1階に話のできる部屋を作ったことが閲覧席の静かさを保証していると思える。

閲覧席の机にも特徴がある。机が横一列切れ目なくつながっている。図書館の机はプライバシーが保てるように一つずつ区切られていることが多い。資料を大きく広げてレポートを書く際などは区切りが不便である。その点切れ目なしにつながっている机は非常に便利である。

(6) 最後に

橋本課長は「滞在型図書館」という表現をお使いになっていた。その言葉通りの意気込みが館内随所に感じられた。図書館利用者の増加という事実は、この試みがまさに成功していることを裏付けている。この大きな仕事の大半が図書館勤務の職員の方々によって、時に教員の反対を跳ね返して、為されたことにも大きな意味があると思う。

今回の見学会は現役学生である私にとっても、以前某大学の職員であった私にとっても非常に学ぶことが多かった。見学会に参加させていただき感謝している。

【大阪大学】

外から見ていた図書館

情報学部情報社会学科2年
山内 沙瑛

大阪大学総合図書館と理工学図書館を見学させて頂いた。見学中は驚くことばかりであった。何故かと言うと、図書館が3階以上の建物であり、今までの図書館の概念を覆す様なものだったからである。

まず、私の中の図書館のイメージは、「ある程度薄暗く、本棚のすき間がないほど本が詰めてあり、基本的に会話を慎むべき静かな場所」というものである。しかし、阪大の図書館は積極的にラー

ニングコモンズを取り入れており、規模自体も想像が出来ないほど大きかった。また、大学図書館は大学と密接に関係していて、良くも悪くも現代社会の変化の影響を受けにくい施設だと思っていた。具体的に言うと、今の社会では、新しいことがどんどん取り入れられて、古いことが切り捨てられて行くことも多々ある。しかし、その中で大学は教育方針などの軸をぶれさせることはない。また、変化させようとしても膨大な手続きが必要となり不可能である。それと同じように図書館も、「静謐で、今まで通りのやり方を守る」施設だと思っていた。

対して、見学した阪大図書館では、積極的に現代の若者の特性を理解しようとし、取り入れようとしていた。それがラーニングコモンズである。「図書館は静かに1人で勉強するところである」という固定概念を取り払っていた。しかし、固定概念を取り払うだけでなく、「サイレントゾーン」などの、今までの利用者也利用しやすい施設であるようにするための努力も惜しんでいなかった。

また、禁止の札もただ禁止と書くのではなく、ここでは禁止だがここなら良いという書き方をし、とても好感が持てた。ただ単に禁止するだけでは反発する人もでてしまうだろうが、それに対する対応もしっかりされていることを見れば、多くの人が従いやすいだろう。

図書館が生徒をターゲットとする場合、矛盾が生じる。まず、「一人で勉強したい生徒」・「友達と話し合いながら勉強したい生徒」・「テスト期間だけ集中するために利用する生徒」である。「一人で勉強したい生徒」と「友達と話し合いながら勉強したい生徒」のニーズが対立するのは言うまでもない。そして、「テスト期間だけ集中するために利用する生徒」の事を考えると、テスト期間だけそのような生徒が増えてしまい、今まで利用していた生徒が利用できなくなってしまうだろう。その対策として椅子や机を増やしたとしても、テスト期間以外は人が少なくなってしまうため、利用されない机や椅子ができてしまう。本棚を減らして机や椅子を置いてしまうと、蔵書に問題が出てくるだろう。

これらの矛盾を阪大図書館は上手く解消していた。元々施設の規模が違いう事によって、解消することができたとも考えられるが、ラーニングコモンズを「友達と話し合いながら勉強したい生徒」を対象にして設置し、「テスト期間だけ集中するために利用する生徒」には広い施設を生かした机や椅子の設置、「一人で勉強したい生徒」にはサイレントゾーンを設けていた。広い施設であるか

らこそ可能な、多様なニーズへの対応が行われているように感じた。

あまり大きな問題ではないと思うが、別の矛盾としては、「単純に本が好きな生徒」と「勉強場所としての生徒」である。私は前者であるところもある為感じる事がある。それは、阪大図書館の綺麗でデザインの良さがかえって目に付きすぎてしまうということである。確かに、新しく綺麗で好感を持てたが、本自体、図書館自身が好きな人であれば、ある程度薄暗く、たくさん本が詰まっている状態を見る事で図書館を楽しんでいるだろう。しかし、デザインが良すぎてしまうと、今まで感じていた「図書館好きの」図書館の良さが失われてしまうように感じた。

これに上手く対応されていると感じたのが阪大の理工学図書館である。理工学図書館は東と西に分かれていたため、半分の棟は新しく、もう半分は今までの状態であった。最初は新しい方が良いかも知れないと思ったが、最終的に自分が利用するとしたら、改修していない棟だと感じた。

図書館として、「新しい学生(利用者)を増やす」・「図書館に長くいてももらうようにする」・「今利用している人たちのニーズを満たす」などの、様々なテーマが考えられると思うが、一度に実現するためには、それなりの規模などが必要だろう。また、大学自体の規模も大きくなければならないと考えられる。そのため、今後どういう事を1番の目標にして行くかという事を決めて、入館者数を増やすのであれば、その目標と結果を図書館が大きく公示することで、生徒に情報発信していくことが必要になったりしないだろうか。阪大理工学図書館で可動式の小さい本棚を見たときに、何に利用するものなのか全くわからなかった。そして、職員の方もほとんど利用者を見たことがないと言うことであった。職員の方が、「必要だと思っていた」と仰っていたが、生徒から見れば「何のために使うものなのか」そもそも「必要なのか」と思ってしまっただろう。この事から、図書館と生徒の溝をいかに埋めて、ニーズを把握することが大事であるかと言う事がわかる。

私の様に、図書館は今までのやり方を守る施設だと思っている生徒はたくさん居るかも知れない。そういう生徒に向かって、いかに意見を必要としていてどのくらい実現させる事ができる状態なのかということを発信していけば、生徒からニーズを直接聞くことができるようになり、よりよい図書館にしていけるのではないだろうか。

学生用図書の利用学生モニターによる選書報告

<静岡本館>

モニターによる書店での選書は今年で3回目となります。過去2回は静岡市内の書店で行ってきましたが、今回は東京の大型書店での選書ができました。学生モニター6名が参加し、合計110冊の図書を選定しました。

今回選定された図書は5階閲覧室の新着図書コーナーにしばらく配架しています。是非ご利用ください。

<浜松分館>

浜松分館では、3年前から「学生による学生のための選書キャンペーン」を実施して、広く皆さんからリクエストをいただいています。さらに、今年ではじめて学生モニターによる書店での選書を実施しました。浜松市内の書店で行い、キャンペーンと合わせて合計110冊の図書を選定しました。

書店での選書の風景



探して、選んで…

バーコードリーダーで「ぴっ」

現場ではデータ集めだけ。
本は、後でまとめて図書館へ納めてもらいます。

図書館の動き

◆会議等

平成21年度第3回附属図書館委員会

平成21年12月9日(水)

○審議事項

1. 学術用資料の整備について
2. 除籍候補図書の不用決定について

○報告事項

1. 本館リニューアルに伴う図書館サービスの制限と閉館の日程について

2. 研究室貸出図書の点検について
3. 図書館利用者アンケート(平成21年度教育研究基盤形成経費事業)について
4. 平成21年度附属図書館利用セミナー年間実施報告について
5. その他
 - (1) 電子ジャーナルの契約について
 - (2) 本館蔵書点検について

開館日程〔2010年4月～2010年9月〕

静岡本館開館日程

2010年4月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

5月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

6月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

7月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

8月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

9月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

 9:00～22:00

 9:00～19:00

 9:00～17:00

 休館

浜松分館開館日程

2010年4月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

5月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

6月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

7月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

8月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

9月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

 9:00～22:00

 9:00～19:00

 9:00～17:00

 休館

静岡大学附属図書館報「図書館通信」第161号 (平成22年3月19日発行)

発行所 静岡大学附属図書館

URL <http://www.lib.shizuoka.ac.jp/>

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

Tel.054-238-4474 Fax.054-238-5408 (再生紙使用)

